

News

ウェルネス



No.125

ウェルネス小畑歯科医院
子どもの歯を守る会
会報 1998年2月創刊

〒640-8401

和歌山市福島324-1

TEL 073-455-9874

<https://www.wellness-kobata-dc.com/>

歯科と麻酔

明けましておめでとうございます。私事ですが、昨年の1月は第2子を出産し、あれからもう一年が経ったのかと時の流れの早さに驚くばかりです。今はまさに子育て奮闘中ですが、昨年7月から施設往診、9月からは矯正医として時短勤務ですが仕事復帰しています。

私は初期研修を終えてから第1子の産休に入るまで、主に高次医療機関で全身麻酔に携わってきました。歯科医師というと歯科治療をするものだと思いますが、こういった道もあります。結婚出産を経て食育や子供の歯並びに関心を持つようになり、現在に至ります。

和歌山県で世界初の全身麻酔!?

実は和歌山県は麻酔ゆかりの地であることをご存じでしょうか。小学校で習ったことがあるかもしれませぬ。世界で初めて全身麻酔に成功したのは和歌山出身の医学者・華岡青洲です(1760~

1835)。当時の手術は麻酔なしで行うものであり、患者さんにとってはまさに地獄。また、外科医にとっても患者さんが泣き叫ぶ中で手術を続けることは大変なストレスだったようです。痛みのない手術を可能にする



▲華岡青洲

る麻酔薬の開発は、患者さんだけでなく外科医にとっても待ち望まれていました。青洲は約20年にわたり麻酔薬の開発を行い、1804年10月にチョウセンアサガオを主成分とした「麻沸散(まふつさん)」を完成させます。それをを用いて、平山村(現在の紀の川市)で世界初の全身麻酔を行い乳がんの摘出術を成功させました。ちなみに、欧米で初め

て全身麻酔が行われたのは、青洲の手術の成功からなんと約40年も後のことになります。現在紀の川市には、この業績を後世に



▲青洲の里

残すために青洲の自宅兼病院であった「春林軒」を中心とした『青洲の里』が設立されています。

「歯科の麻酔」というと、やはり歯ぐきにブスツとされる注射を思い浮かべる方も多いと思います。もちろんあの注射も1つの方法ですが、それ以外でも、患者さんの痛みが少しでも小さくなるように、またリラックスして治療が受けられるように様々な麻酔法があります。そこで今回、現在歯科で用いられている麻酔法を紹介します。

局所麻酔法

前述した歯ぐきにする注射を正式には局所麻酔と呼びます。その名の通り局所に麻酔薬を作用させて一時的に感覚を消失させる方法です。局所麻酔はさらに以下の3つの方法に分類されます。

①表面麻酔

麻酔薬を歯ぐきに塗って表面の感覚を麻痺させる方法です。歯自体を麻酔するためには後述の浸潤麻酔や伝達麻酔といった注射がどうしても必要ですが、表面麻酔の後で行うとずいぶんと楽になります。

当院はこの方法を全ての患者さんに徹底しています。一般的に表面が麻痺するのに数分要するため、行わない歯科医院も多いようです(注射する時間も含めると約5分かかかるからです)。

実際には、治療する歯の歯ぐきに麻酔薬を染み込ませた綿球を数分置きます。「麻酔をしますね」といわれた後に口の中に綿がたくさん入ってきた

ら、注射の痛みをとるための表面麻酔ってやつだ、親切だなと、感じていただけると努力が報われます。

②浸潤麻酔

痛みをとりたい部分の歯ぐきに麻酔薬を浸潤させる、いわゆる歯科の代表的な麻酔です。歯医者さんの痛いイメージの多くはこの処置のせいかもしれません。しかし、現在では細くて切れの良い針が開発され、また麻酔薬の温度管理にも気を配ることで以前よりはるかに痛みの少ない注射になっています。さらに表面麻酔も併用することで、より痛みに配慮することができます。

③伝達麻酔

主に親知らずの抜歯で用います。この麻酔は難易度が高くテクニックを必要としますが、口唇や舌など広い範囲に



麻酔効果が得られるのです。効果が数時間続くので治療後の痛みが気にならなくなり、鎮痛薬の量を減らすことが出来るというメリットもあります。

精神鎮静法

局所麻酔をすれば痛くないのはわかっているけれど、歯を削る音や振動、薬品のおいなどがどうしても苦手で、治療が受けられない患者さんにとってつけの方法です。リラックス効果の高い麻酔薬を利用して、うとうとした状態で治療が受けられるので恐怖心や不安感が軽減します。また思わず、えずいてしまう患者さんにも高い効果を発揮します。全身麻酔と異なり治療中も会話が可能で、入院の必要もない安全性の高い方法です。た

だし、痛みをとることはできません。そのため痛みを伴う処置の場合には必ず局所麻酔を併用します。①笑気ガスを用いる吸入鎮静法と、血管に鎮静薬を注入する②静脈内鎮静法の2種類の方法があります。当院では笑気ガスを用いた吸入鎮静法を行っていますので、歯科治療に対して恐怖心のある方は是非ご相談ください。



全身麻酔法

一般的には医科の全身的な手術でのイメージが強いと思います。しかし、口腔がんやアゴ・顔面の骨折、大掛かりなインプラント手術、また障害のある患者さんや治療に協力できないお子さんなど、歯科でも全身麻酔は広く用いられています。

最後に

今回、様々な歯科の麻酔について紹介してきました。

麻酔が効きにくい体質なんですという患者さんがたまにみえます。しかし、実際は体質により局所麻酔薬の効果が影響を受けることはほとんどありません。むし歯や歯周病を長年放置し、強い炎症がある場合(膿が溜まっているなど)は局所麻酔薬の効果が十分に得られません。心当たりのある方は検診を兼ねて早めの受診をおすすめします。



▲洋の東西を問わずむし歯の治療は抜くことだった。

(歯科医師・竹岡亮子)

STAFF NEWS

新しい仲間を紹介します!



12月から言語聴覚士の岡美代子先生に来ていただけることになりました。飲み込みや発音が気になる方は遠慮なく申し出てください。

12月から言語聴覚士として働かせていただくことになりました、岡美代子です。火曜日の午前中、訪問診療に行かれる歯科衛生士さんにくっついて回っています。発語や摂食・嚥下に少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



言語聴覚士
岡 美代子



あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願ひ申し上げます。



今年の抱負は…

波止場釣りで
フレイル予防
小畑 文也



MFT学会学術大会 in 東京 2017

寒さも少しずつ厳しくなり、本格的な冬の訪れを感じるこの頃。子どものお口ポカンを撲滅すべくスタートさせたMFT(口腔周囲筋機能療法)で子どもたちとトレーニングしていると、あつという間に今年も1年が過ぎ去りました。

去る11月、歯科医師1名と歯科衛生士2名の計3名で、東京で開催されたMFTの研修会・学術大会に、去年に引き続き今年も参加させていただきました。

今回のテーマは『舌を科学する』です。

歯並びを悪くする原因は、遺伝や口元の癖などが挙げられますが一言に“癖”と言っても、舌を前方に突き出す癖、飲み込みに異常がある癖、舌が歯に触れて起こる発音の癖、噛みしめの癖など様々な異常や不正の活動があります。特に舌の癖は口



元だけの問題ではなく、全身の姿勢が関係することも多く、今回の研修会でも舌の活動や、そこに属する筋の役割だけでなく、全身の歪みが顎骨に与える影響についての内容のものが多くみられました。



MFT学術大会は今回が第5回と、まだ始まったばかりですが会員数は年々増加しており、現在900人以上が登録されています。MFTは専門家の指導のもとで、きっちり行えば結果が出るメソッドだということが全国的に広がりつつあり、取り組みを行う歯科医院も増えてきているようです。

今回の学会で学んだことを活かし、子どもたちの望ましい口腔機能の獲得を一緒に目指していきたいと思います。

(歯科衛生士・弓場未紗樹)

和歌山県初の障害者歯科指導医誕生!

日本障害者歯科学会指導医試験に合格しました

「先生、認定医として論文もたくさん書いているし、受験資格ありますよ。是非、合格して和歌山県の障害者歯科に貢献して下さい。」母校の恩師からこのように背中を押され、2017年、日本障害者歯科学会の指導医を目指すことになりました。

願書を出してから一次書類審査に合格後、二次試験に挑みます。本業である日々の診察をこなしながら、障害者歯科学の全範囲を勉強するのは簡単なことではありませんでしたが、早朝や週末などの時間をみつけて勉強しました。そ

して迎えた試験当日、日本を代表する教授陣の前での口頭試問でしたが、不思議と緊張はなく、自信をもって自然体で答えることができました。合格と聞いた時は本当に嬉しく、また、指導医は和歌山県初とのことで、これからの責務を考えると身がひきしまる思いです。

今後、指導医が在籍することで、当院にて認定医や認定衛生士を目指すことができますので、スペシャルニーズを勉強したい歯科医師や歯科衛生士の方をご存知でしたら、是非声をかけて下さいね。

(歯科医師・岡雅子)

